

講義名	財務会計論			授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時間	前期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要
 本講義は簿記・会計の基礎知識を理解している受講者を対象に、貸借対照表の個別テーマを詳細に取り上げます。損益計算書については少し触れる場合がありますが、時間の関係上体系的に取り上げることはありません。授業計画に列挙されている個別テーマについてどのような会計処理が行われるかについて紹介し、またなぜそのような処理を行うかについて背後にある会計理論を交えて解説します。本講義は簿記技能を高めるための科目ではないが、日商簿記検定2級や1級の内容を理解するための手助けになります。

到達目標
 日商簿記検定2級や1級の一部の会計処理方法と、会計処理の背後にある理論知識が身に付くようになります。

提出課題
 ・ ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。
 ・ 小テストを事前予告なく、複数回実施します。授業のはじめに行うので、遅刻しないように注意してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 課題や小テストを回収後、解答を配布します。また、必要に応じて解説します。点数は採点后、後日公開します。

評価の基準
 平常点（課題ほぼ毎回、小テスト複数回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他
 本講義は日商簿記検定試験の2級と1級の内容を扱うので、3級以上の知識を有することを前提に講義を進めます。「商業簿記」を履修済みであることが望ましいです。簿記の初級者を対象とした科目ではないので、くれぐれもご留意ください。

教科書
 ・使用しない。

--	--	--	--	--

参考図書

・日商簿記2級とあるテキスト商業簿記【第3版】	泉原 知之	ネットスクール出版	2200	9784781032238
・日商簿記1級とあるテキスト 商業簿記・会計学I 基礎編（とある簿記シリーズ）	ネットスクール株式会社	ネットスクール出版	2640	9784781031668
・日商簿記1級とあるテキスト商業簿記・会計学II 応用編（とある簿記シリーズ）	ネットスクール株式会社	ネットスクール出版	3520	9784781031682

その他
 <プリント資料>
 講義中、配布します。

授業計画

第1回 ガイダンス・利益の計算方法
 第2回 企業会計原則
 第3回 資産の構成・有価証券
 第4回 繰前資産
 第5回 有形固定資産
 第6回 無形固定資産
 第7回 減価償却
 第8回 負債の構成・社債
 第9回 引当金
 第10回 資産除去債務
 第11回 リース会計
 第12回 リース会計
 第13回 退職給付会計
 第14回 純資産の構成・払込資本
 第15回 評価換算差額等・新株予約権

以上の計画は、講義の進み具合によって少し前後する可能性があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）を行ってください。また、講義終了後は当日内容の要点を整理し、理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 企業の会計情報を収集、分析するための高度な方法を身につけることができます。
 卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：財務的な側面から企業マネジメントに関する問題探索、課題提案をする基礎知識が身に付きます。
 卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績に関する情報を作成し、分析することができます。
 卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見し、経営戦略の構築にある程度貢献することができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会ほぼ毎回あります。
 ICTの活用：Teamsを利用します。

実務経験の有無及び活用
 実務経験あります。
 実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思ひます。

備考